

平成 30 年 12 月 12 日

受験生・関係者の皆様へ

聖マリアンナ医科大学

「聖マリアンナ医科大学医学部の入学者選抜における公正確保等に係る
緊急調査」への本学の見解について

このたび、文部科学省により実施されました「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査」につきまして、同省より、「一般入試における調査書等の点数化結果について調査したところ、女性よりも男性が、多浪生よりも現役生が高い点数となっていることを確認しており、性別や年齢等により、属性により一律の取扱いの差異を設けていることが疑われる。」と不適切である可能性の高い事案として取り上げられております。

本学としては、受験生の利益を守るため、同省に対して提出いたしました「本学の見解」に基づきまして、以下のとおり報告いたします。

1. 本学としての見解について

本学の一般入学試験における入学者選抜は、募集人員を約 85 名として、第 1 次試験と第 2 次試験に分けて入学者選抜を実施しております。

第 1 次試験では学力試験（英語、数学、理科 3 科目中 2 科目選択）を課し、それぞれ満点を 100 点として、400 点満点で判定し、成績上位者より順番に第 1 次合格者を決定しております。第 1 次合格者の選抜は、学力を評価しており、全て記述式の問題を出題し、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価し、6 年間の医学教育に耐えうる学力を見極めながら選抜を行っております。

第 2 次試験では、第 1 次試験合格者に対して、適性検査、小論文、面接を課しており、適性検査は面接の参考とし、小論文、面接はそれぞれ 100 点と点数化したうえで選抜を行っております。第 2 次試験では、第 1 次試験で学力を見極め判定していることから、人物を重視した選抜を行っております。

このことは、オープンキャンパスや学内外で行われる進学相談会・説明会など多くの場で周知しております。

一般入学試験の入試要項には、「第 2 次試験では、第 1 次合格者に対して、適性検査、小論文、面接を行い、その成績と第 1 次試験の成績に出願書類を総合の上、合格者を決定します。」と明記されております。この「出願書類を総合の上、合格者を決定する」の部分が、調査書等の評価に該当します。

本学の面接試験では、従来、面接委員に対し、志願票や調査書等を事前に配布し、自由質

問形式による面接を実施していましたが、平成 29 年度入学者選抜より、これを改め、面接委員が受験生の事前情報による先入観によって面接評価が左右されないよう、受験生の情報に起因する資料の配布をすべて取り止め、アドミッションポリシーに基づく、行動（コンピテンシー）面接により共通質問形式に切り替えて実施しております。

「調査書等の評価」は、①志願票：学外活動、クラブ活動、各種大会成績、資格取得などの状況に併せて、志望動機書の中から本学への志向性等を考慮した評価および、②調査書：各教科科目の学修の記録、全体の評定平均値、学習成績概評と段階、指導上参考となる諸事項、学習における特徴、行動の特徴、総合的な学修時間の評価、出欠の記録などの評価をそれぞれ勘案し、これに、面接委員から聞き取った内容（面接試験終了後、入試委員会に報告を義務づけている）および、面接評価表を参考に評価しております。

また、合否判定は、入試委員会で判定を行ったうえ、最終的に教授会の議を経て、正規合格者及び補欠者を決定し、補欠者には、補欠順位を付して、発表を行っております。

以上のとおり、属性による一律な評価は行っておらず、受験生を個々に総合評価した結果を基に入学者選抜を実施しております。

2. 平成 31 年度入学者選抜における対応について

平成 31 年度入学者選抜における本学の対応としては、本年 6 月に文部科学省から発出された「大学入学者選抜実施要項」及び同年 11 月 16 日に全国医学部長病院長会議が取りまとめた「大学医学部入学試験制度に関する規範」に基づき、調査書等の評価方法をより明瞭化するよう検討し、今年度の第 1 次試験合格者に対してその詳細を具体的に周知したいと考えております。

また、平成 32 年度以降に関しては募集要項等の見直しを行い、引き続き、本学が定めるアドミッションポリシーに見合った入学者を確保すべく適正かつ公平な入学者選抜に努める所存であります。

以 上